

# シニアゴルフ・ボランティア活動って何？

(特非) シビルNPO 連携プラットフォーム 個人正会員  
日刊建設通信新聞社 代表取締役社長 和田恵



週末は家庭菜園で時間をつぶすことが多い。広さは1畝(せ)半、いわゆる1.5アール(150㎡)ほど。とくに夏場の今は、1週間も足が遠のくと作物の収穫時期を逃すだけでなく、伸びた雑草むしりに往生する羽目になる。出勤前に日の出とともに原チャリを飛ばして行く体力はなく、実に悩ましい限りである。

家庭菜園を始めたのは近所に住む、小1だった長女の同級生のお父さんに誘われたのがきっかけ。いまや限界集落に近づきつつある、生れ育った九州の寒村での郷愁と、すでに3人になっていた子供たちの情操教育にとの思いからだ、あっという間に26年経った。隣地で耕作する、紹介者でもある件の知人は昨年、定年退職を潮にさらに1反(10アール、1000㎡)に拡張するほどの情熱を持つが、現状でも持て余し気味の当方は尻込みしている。

それはともかく、活動的な知人は昨年、週1回、ゴルフ場のフェアウエーからのショットでできたディボット跡の目土入れ、除草、ボールマーク跡の補修といった軽作業のボランティア活動に従事している。時間は3時間ほどで、数回こなすと客が少ない平日の時間帯に限り、おおむね平日ビジター料金の半額程度でプレーできる特典がある。対象はシニア世代で、男女は問わない。名付けてシニアゴルフ・ボランティア活動。寡聞にして知らなかったが、不況で経費削減に苦しむゴルフ場の悩み解消と高齢者の生きがいづくりのため10年ほど前から始まり、いまは全国的な広がりを見せているという。

知人が所属するのはNPO法人。活動を始めたのは9年前だが、4年前には会員規約をつくり、活動中のけがに備え災害補償規定も設けているという。協力ゴルフ場は関東を中心に東海、近畿、中国、九州の都市部近郊の約90カ所で、登録会員数は約1200人を数える。知人が満足げな表情で言う。「ゴルフ好きにはたまらないよね。プレー代はメンバーさんより安いし、ゴルフ場も助かるから、双方にとってメリットがある。十分に社会貢献活動だよ」。協力ゴルフ場ならどこでもプレーできるようで、知人は近在のゴルフ場を制覇すると意気込んでいる。

趣味と実益を兼ねたような話題だが、活動内容を聞いて「良いところに目を付けたな」と感心する。同時に、NPO活動に限らないだろうが、求められてする活動に失敗はないことに気づかされる。知人いわく。「定年組でNPOでもつくって野菜を育て、近くのスーパーに卸そうよ。あ、その前に早く目土のボランティアに入って、安上がりのゴルフをして遊ぼうよ」。今のところ首肯する気はないが、しばしNPO活動について考える良い機会であり、代わり映えない活動話に耳を傾けている。

